



第101号

2012 / 6

下津井電鉄創立100周年記念 「備州軽便阿房列車～下津井電鉄編～」

■6月に入り連日の雨模様。雨が降れば出掛けてなくて済むと都合よく解釈し、家で大人しくしていたが、もともとじっとしているのも苦手で、出掛けてみようと思った。雨はもうイヤである。久しぶりに太陽を見てみたい。そう思い、晴れの国に出掛ける事にした。もちろん岡山駅では降りず、わき目もふらずに乗換えを済まし宇野線の茶屋町で下車をした。厭きたといえ、大きな機関車に揺られるのも少し厭きがきたので、今回は小さな汽車の旅がいいだろうとヒマラヤ山系氏が段取りをしてくれた。茶屋町でおりると隣のホームになんとも可愛らしい小さな赤子のような電車が留っていた。「おい、山系君。あの電車に乗るのか」「はい。そうですよ。あの電車で下津井へ行きます」そう言われ、暖簾をくぐるように少し前かがみになりながら車内に乗り込むと、ジリリリ・・・という発車ベルが鳴り終わると動き始めた。

■コトコトとよく揺れる小さな電車は、まるで揺りかごのようである。ウトウトと意識が薄れいこうとした時、山系君に起こされた。どうやら旨いものがあるらしいと降りた駅は、茶屋町から2つ目の藤戸という駅であった。源平合戦の史跡でもあるこの地名は私も知っていたが、ここで好物の大手饅頭にも似た

藤戸饅頭を頂いた。旨くまた懐かしい味であった。藤戸饅頭の敷布団に大手饅頭の掛け布団の中で大の字になって寝転ぶ夢を見ていた私を乗せた赤子電車は、瑞々しい田んぼと緑の濃くなってきた山の間を太陽の方へ太陽の方へと進んでいった。沿線には沙羅の花で有名な藤戸寺。対岸にある金比羅宮と両参りで有名な蓮台寺。そして温泉旅館のある由加山などの観光地が点在する。やがて小さな河口に掛かる下稗田川鉄橋を渡ると街中の駅に到着した。児島の駅である。この駅では小さなこの電車にも降りる人と乗る人がごった返し、まるで、お子様省線電車という雰囲気である。

■車内が落ち着き始めた頃、赤子電車は再びまた頼りなくも懸命に動き出した。路地裏を縫うようにいくつかの駅を停車しながら走っていくと、キーキーと金属音を響き立たせながら、右方向へ大きな弧を描いてカーブしたとともに、車輪と線路が擦れたであろう焦げ臭い匂いが潮の匂いへと変わった。

「海ですよ。海！」山系君が立ち上がり懸命に叫んでいる子供のような姿と、頭を車内の天井にぶつけそうになったやはり大人である姿が滑稽で、おもわず大笑いをした。瀬戸内海のキラキラした海面を眺めながら、コトコトと揺れながら鷺羽山の中腹を進み、沿線唯一の景勝地、鷺羽山駅に停車。この駅を過ぎると今度はやや下り坂を駆け抜けるように進み、こけはしまいかと心配しているうちに東下津井、下津井と小さな港町の終着駅に到着した。茶屋町から下津井まで21キロ。やはり疲れたのであろうか。眠るように赤子電車は駅構内の車庫に入っていった。

■下津井電鉄は昨年8月に創立100周年を迎えました。社名には電鉄とありますが、鉄道路線は現存していません。廃止の原因は乗客の減少でした。瀬戸大橋開通時には展望電車「メリーベル号」や「落書き電車」などを走らせ、観光鉄道への転身を試みましたがわずかその2年後には廃止となりました。下電児島駅とJR児島駅が離れていた事も廃止を早めた要因にあると思います。もしこの間をLRTのような形で、JR駅前まで乗り入れていたら・・・瀬戸内国際芸術祭で瀬戸内海の島々が舞台となる中、下津井から本島、六口島、与島などに船でアクセスという交通体系が確立していれば、世界に誇れるアート電車として活躍していたかもしれません。だからこそ今ある公共交通網を継続していく事と更に利便性を高めていく事が大切ではないでしょうか。

(安藤 亮)



事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索

NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで



循環バスで児島下津井めぐり

倉敷市児島地区で路線バスを運行する下津井電鉄、地元では“下電バス”と呼ばれています。名前の通り瀬戸大橋が開通するころまでは鉄道運行をしていました。今回は2005年5月に発行したかわら版第9号の内容を加筆修正して、児島の魅力を紹介します。

下電バスが自主運行するコミュニティバス「下津井循環とこはい号」はJR児島駅を起点に、鷺羽山ハイランド・下津井港・田之浦・鷺羽山展望台・大島・児島中央病院・児島市民病院など、観光地や公共施設などを巡る1周約50分の路線です。沿線には遊園地・ホテルなどの他、「下津井漁港前」停留所近くにはむかしの下津井の様子を再現した「むかし下津井廻船問屋」や「荻野美術館」など見所も多いです。「下津井港」停留所からほど近い、旧下津井駅には現在でも下津井電鉄の鉄道車両が保存されており、下津井みなと電車保存会の手により補修工事がされています。この「とこはい号」はただバスに乗っているだけでも非常に眺めの良い路線で、「下津井港前」から「長浜」にかけては海岸線沿いに走っていくので、瀬戸内海の多島美や瀬戸大橋の絶景を楽しむことができます。

運行開始当初は以前「うじょうくん号」として走っていたレトロ調バスでしたが、現在では自転車2台搭載可能な「自転車ラックバス」が専属で運行されています。これは線路跡を利用した自転車道“風の道”の整備が下津井まで完了し、自転車で下津井まで来た人が「帰りはバスに乗れないか」という要望に応えたものです。とこはい号の運賃はJR児島駅～鷺羽山ハイランドまで200円、下津井港・鷺羽山展望台まで250円、児島中央病院・児島市民病院まで160円、自転車を搭載する場合は別途100円が必要です。



昼間に楽しむのも良いのですが、ぜひ乗って見て頂きたいのは夕方頃の瀬戸内海に沈む夕日です。この瀬戸内に沈む夕日を楽しむために運行されているバスが「鷺羽山夕景鑑賞バス」でJR児島駅や周辺のホテルから乗車できます。運行は金・土・休前日で、夕暮れ前にJR児島駅を出発し、夕日ヶ丘ホテル・下津井港・鷺羽山展望台を巡りながら、

海に沈む夕日を車窓から楽しむことができます。運賃は大人・子供とも500円、所要時間は約2時間です。

児島は昔から繊維の街として知られ、学生服や作業着など数多くの繊維業の会社や工場があります。なかでもジーンズは全国的に有名で、児島地区に6つの工場があります。これらの工場や児島の塩田王「野崎武左衛門」の旧家を巡るバスが「ジーンズバス」で、車内はジーンズ生地で作られたシートカバー。車体の側面もジーンズ柄です。工場見学などを楽しみながら児島の街を巡ることが出来ます。

「児島循環線ふれあい号」は旧市街地を巡る1周約50分の路線で、沿線住民の足として利用されています。

児島と坂出を瀬戸大橋経由で連絡する「瀬戸大橋線」は、櫃石島・岩黒島・与島の住民に利用されているほか、釣り客の利用もあるようです。とくに櫃石島では島内の道路へ下りて行きます。島の中から瀬戸大橋を見上げることできる場所のひとつです。与島では琴参バスに乗換えて坂出駅まで向かうことが出来ます。なお琴参バスの与島側起点は島の東側にある浦城で、塩飽水軍資料館があります。

ぜひ児島下津井散策と瀬戸内海の夕景を楽しむに児島へ出かけてみてはいかがでしょうか。

(松田和也)



下津井循環バス「とこはい号」時刻表

JR 児島駅	ハイクブ	下津井港	鷺羽山	児島駅南	JR 児島駅
8:30	8:40	8:45	8:57	9:08	9:20
9:30	9:40	9:45	9:57	10:08	10:20
10:30	10:40	10:45	10:57	11:08	11:20
11:30	11:40	11:45	11:57	12:08	12:20
12:30	12:40	12:45	12:57	13:08	13:20
13:30	13:40	13:45	13:57	14:08	14:20
14:30	14:40	14:45	14:57	15:08	15:20
15:30	15:40	15:45	15:57	16:08	16:20
16:30	16:40	16:45	16:57	17:08	17:20
17:30	17:40	17:45	17:57	18:08	18:20

鷺羽山夕景鑑賞バス JR 児島駅発時刻

4・5月	6・7月	8・9月	10~12月	1・2月	3月
17:30	18:00	17:30	16:00	16:20	17:00